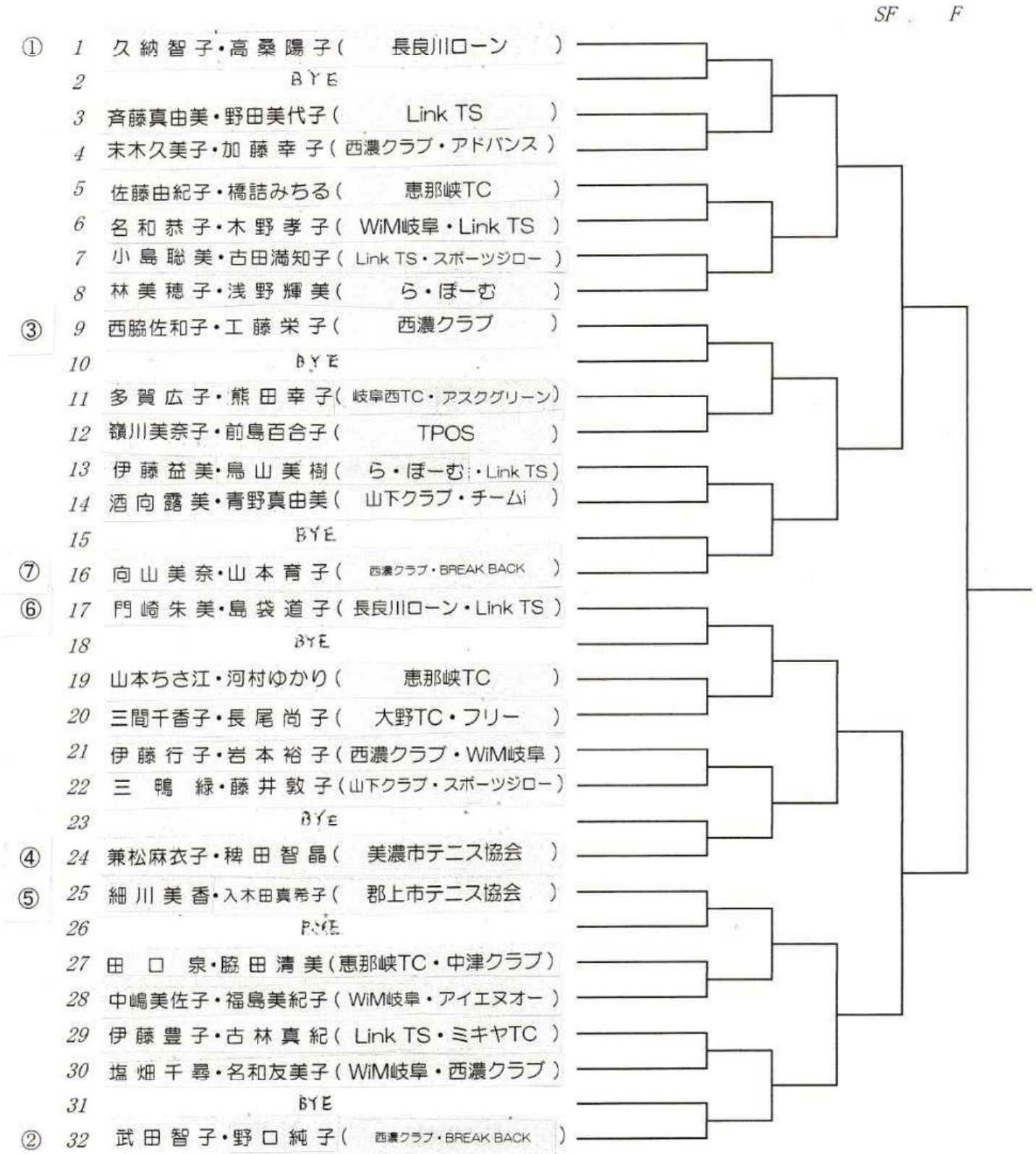
朝日東海レディーステニス大会クイーンの部

2026・11・6



第1シード　久納智子・高桑陽子

第2シード　武田智子・野口純子

第3シード　西脇佐和子・工藤栄子

第4シード　兼松麻衣子・稗田智晶

第5シード　細川美香・入木田真希子

第6シード　門崎朱美・島袋道子

第7シード　向山美奈・山本育子

第8シード

☆☆注意事項☆☆

1．受付時間までに試合のできる服装に着替え、二人そろって本部に届け出る。遅刻は失格とする。
2．試合順序は本部掲示板を確認し、指定されたコート付近で待機する。
3．前の試合終了後、直ちにコートに入り試合を始める。対戦相手が来ない場合はローピングアンパイアを呼ぶ。
4．ポイント間は 25 秒以内とし、エンド交代時は 90 秒以内の休憩とする。第１ゲーム終了後とタイブレーク中は休憩なしでエンドを交代する。
5．試合終了後、勝者は直ちにスコアシートを本部に届け、次の試合の確認をする。

☆セルフジャッジについて（選手自身が判定とコールをします）

1．サーバーはサーブを打つ前にスコアをレシーバーに聞こえる声で言う。選手同士その時点のスコアを確認する。
2．ネットより自分側の判定とコールをする。
ボールがラインにタッチした時、見失って判定できなかった時は「グッド」
ボールとラインの間にはっきりと空間が見えた時は「アウト」「フォールト」
3．判定とコールは、相手にはっきりと分かる声とハンドシグナルを使って、ボールの着地後速やかに行う。代表的なハンドシグナルは、人差し指を出して「アウト」「フォールト」、手のひらを地面に向けて「グッド」
4．ダブルスの判定とコールは、１人の選手が行えば成立する。しかし、ペアの両選手の判定が食い違った場合はそのペアの失点となる。
ただし、ネット、ストラップまたはバンドに触れたサービスを、１人が「フォールト」、パートナーは「レット（グッド）」とコールした場合は「（サービスの）レット」となる。
5．ペアの判定が食い違ったとしても「フォールト」「アウト」をコールした選手が「グッド」に訂正し返球が正しく相手コートに入った場合、１回目は相手への故意ではない妨害としてポイントレットにする。そして、２回目以降は故意に妨害したとして失点する。ただし、ミスジャッジの前に打たれたボールが明らかなウイニングショット・エースまたは返球がアウトした場合は相手への妨害が起こってないので、１回目であってもミスジャッジをしたペアの失点となる。
6．「ネット」「スルー」「タッチ」「ノットアップ」「ファウルショット」は、両選手・チームが判定とコールをすることができる。
7．サービスのレットはレシーバー側がコールする。
8．インプレー中、他コートからボールが入ってくるなどの妨害が起こった場合は、「レット」とコールしてそのポイントをやり直す。
ただし、レットがコールされる前に打たれたボールが、コート内に正しく入らなかった場合は、そのボールを打った選手・チームの失点。明らかなウイニングショット・エースとなった場合は、そのボールを打った選手・チームの得点。
ポイントが終了した後で、インプレー中に妨害があったとしてやり直しの要求はできない。
第２サービスのモーションに入った後に妨害があった場合は、第１サービスからやり直す。
9．第２サービスからのインプレー中、第１サービスのフォールトのボールを誤って蹴飛ばした場合、相手選手がプレーを妨害したと判断した場合、「レット」をコールすることができる。２回目以降は、その度に相手への故意による妨害となり、失点する。
10．次の場合はレフェリーまたはローピングアンパイアに速やかに申し出る。
・試合中、トイレ・着替えなどでコートを離れたい時
・相手選手の言動やコール、フットフォールトなどに疑問、不服がある時
11．試合中に発生したケガや病気の時は、レフェリーまたはローピングアンパイアに要求後、次のエンド交代時(緊急を要する場合は直ち)に、１部位の症状につき１回のＭＴＯが取れ、３分間の手当てをすることができる。
筋ケイレンの場合、エンド交代の時間内に限り処置をしてもよいが、ＭＴＯをとることはできない。
12．レフェリー、ローピングアンパイアは、コート内外からフットフォールトのコールや選手の判定をオーバールールできる。コート外からのオーバールール時の対応は、セルフジャッジについての「５．」と同じ。コート内での場合は１回目であっても失点する。

☆試合中にわからない事や困った事が起きたら

ローピングアンパイア(コート付近の通路にいます)を呼んでください。